

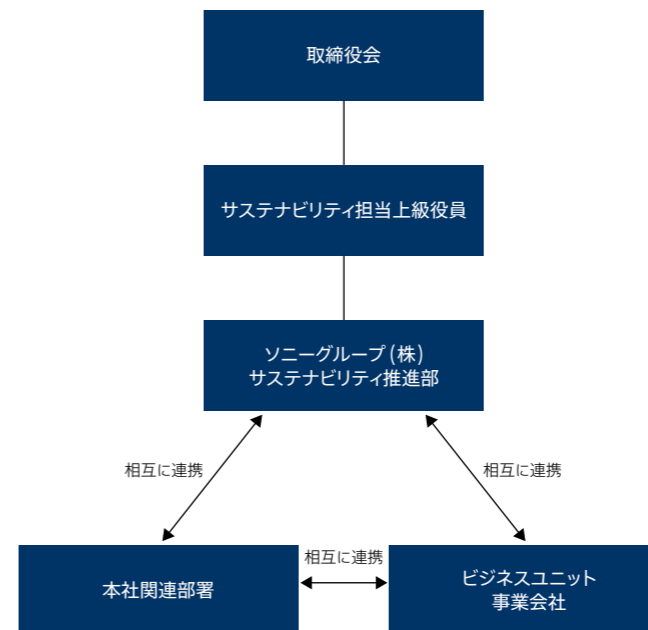
## 推進体制

当社では、サステナビリティ担当上級役員のもと、サステナビリティ推進部を設置し、同部がビジネスユニットおよび事業会社（以下、あわせて各事業部門）および本社関連部署（コンプライアンス、人事、経営企画管理、財務、法務など）（以下、関連部門）と連携しながら、グループ全体のサステナビリティに関する各種取り組みを推進しています。

### 推進のための主な取り組み

当社サステナビリティ推進部は、「サステナビリティに関する基本方針」に基づき、ソニーの事業活動への当該基本方針の浸透を図るとともに、ステークホルダーとの対話やマテリアリティ分析などを通じて、グループ全体で対応が必要なサステナビリティ課題を特定しています。また、それらの特定したサステナビリティ課題について、本社マネジメントや関連部門と連携しながら、長期環境計画「Road to Zero」などのグループとしての対応方針を策定し、グループ全体に周知することなどにより、グループ全体での取り組みを推進しています。

また、本社のサステナビリティ担当上級役員は、サステナビリティに関連するリスクを定期的に検討・評価し、損失のリスクの発見・情報伝達・評価・対応に取り組んでいます。



# ソニーのサステナビリティ

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

推進体制

サステナビリティ担当役員メッセージ

活動サマリー

ステークホルダーエンゲージメント

SDGsとソニーのかかわり

外部評価・外部表彰

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

## 経営層および事業への浸透

各事業部門においては、サステナビリティの観点からの課題と機会を検討するとともに、それぞれの事業特性に応じた、サステナビリティに関する取り組みを行っています。加えて、本社サステナビリティ推進部と議論の上、重視しているサステナビリティ課題への取り組みについてKPI（以下、サステナビリティKPI）を設定しています。サステナビリティKPIは各事業部門の業績評価の一部に組み込まれており、その達成状況をサステナビリティ推進部においても評価しています。加えて、当社上級役員の業績連動報酬の評価指標として、グループサステナビリティ評価の達成度を設定し、担当事業・組織の枠にとどまらない、ソニーグループ全体の中長期的な企業価値向上、持続的成長に向けた経営層としての取り組み、例えば、経営のサクセッションや人的資本への投資、社会価値創出及びESG（環境・社会・ガバナンス）の観点での取り組み、事業間連携での価値創造を加速するための取り組み、社員意識調査によるエンゲージメント指標等を評価しています。

2023年度においては、グループ全体のサステナビリティに関する取り組みのめざす方向をこれまで以上に明確にするため、「感動に満ちた世界を作り、次世代へつなぐ」という“Sony’s Sustainability Vision”を新たに策定しました。また、サステナビリティ担当上級役員、人事担当上級役員及び各事業部門のサステナビリティ責任者が参加するグループ全体でのサステナビリティ会議を開催し、各事業部門のサステナビリティに関する取り組み及びサステナビリティKPIの進捗状況などを共有し、確認しました。

なお、各事業部門において設定した2023年度のサステナビリティKPIには、製品の消費電力の削減、製造プロセスの温室効果ガス（以下「GHG」）排出量の削減、女性管理職比率の向上、ソニーグループのコンテンツIPを活用した環境啓発活動の実施、ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン（以下「DE&I」）に関するプログラムや研修の実施、製品・サービスのアクセシビリティ向上などが含まれていました。

## ステークホルダーとの対話

統合報告書、サステナビリティレポートなどの各種報告書の発行やサステナビリティ説明会、ソニーグループポータルサイトなどを通じ、ソニーのサステナビリティに対する考え方、取り組みの発信を行っています。

[☞ 統合報告書](#)

[☞ サステナビリティ説明会](#)

[☞ サステナビリティ](#)

## 社内浸透のための取り組み

サステナビリティを推進していく上で、社員一人ひとりの意識を向上させることが重要と考え、社内浸透に向けたさまざまな取り組みを行っています。

- サステナビリティアワードの開催
- サステナビリティフォーラムの開催
- 社内ウェブサイトでの情報発信
- e-ラーニング研修の実施

## 取締役会への報告とレビュー

本社サステナビリティ推進部は四半期ごとに取締役会に対し活動を報告しています。また、原則として年に一度、取締役会においてソニーのサステナビリティ全般（気候変動対応などの環境に関する取り組み、サプライチェーンにおける強制労働の防止などの人権、多様性、社会に関する取り組みなど）に関する活動状況を報告し、レビューを受けています。さらに、各事業部門からの中期経営計画に関する報告の一部として、それぞれの事業に関わりの大きいサステナビリティの課題と機会及びそれらへの取り組みについての報告を受けています。

Sony’s Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony’s Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

推進体制

サステナビリティ担当役員メッセージ

活動サマリー

ステークホルダーエンゲージメント

SDGsとソニーのかかわり

外部評価・外部表彰

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

# サステナビリティ担当役員 メッセージ



## 神戸 司郎

ソニーグループ株式会社  
執行役 専務  
サステナビリティ担当

## 感動に満ちた世界を創り、 次世代へつなぐ

ソニーは、「クリエイティビティとテクノロジーの力で、世界を感動で満たす」というPurposeと、「人に近づく」という経営の方向性のもと、持続的な価値創造と長期視点での企業価値の向上を目指し、多様な事業を展開しています。各事業がそれぞれの特性を生かしてサステナビリティ活動に取り組んでいます。この度、グループ全体で目指す方向をこれまで以上に明確にするため「感動に満ちた世界を創り、次世代へつなぐ」という“Sony’s Sustainability Vision”を策定しました。人々が感動で響き合い、感動が広がり、続いていくように、私たちが行動していくことが重要と考えています。

### 人材の多様性への取り組み

事業と人の「ダイバーシティ(多様性)」は、「クリエイティビティ」「テクノロジー」と並ぶソニーの「価値創造のドライバー」であり、全世界で活躍する約11万人の社員は、国籍や人種はもとより、事業の広がりによって職種

も極めて多岐にわたります。2023年度には10年ぶりにダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I) ステートメントを改定し、多様な人材があらゆる領域を越えて交錯することがイノベーションを創出するという考えのもと、グループ全体でダイバーシティのさらなる進化に取り組んでいます。同時に、次世代人材の成長支援や多様な人材の活躍推進につながる活動にも積極的に取り組んでいます。

### グローバルな社会課題への取り組み

私たちを取り巻く環境は常に変化し続けていますが、特にこの数年は、気候変動による甚大な自然災害の多発や人権リスクの拡大、新型コロナウイルスのパンデミック、社会の分断など、社会と地球環境へ大きな変化をもたらす出来事が続いて起きています。

このような地球規模の社会課題への対応として、ソニーでは2020年にそれぞれ1億USDの「新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金」と「Global Social Justice Fund」を設立し、さまざまな支援を実施してきました。

さらに、2023年9月に、UNICEF、UNHCR、セーブ・ザ・チルドレンの3つの国際団体それぞれとパートナーシップを締結し、世界各地の子どもや若者への教育支援や就業スキルの習得およびメンタルヘルス向上のための取り組み、難民・避難民への保健・衛生活動支援、そして、日本国内での子ども給付金の支給や海外における子どもや青少年の保護・レジリエンス向上等の活動を支援しています。

### インクルーシブな社会への貢献

世界の6人に1人にあたる約13億人以上の人が何らかの障がいがあるといわれる中、ソニーでは、「誰もが感動を分かち合える未来を、イノベーションの力で。」をテーマに、グループ全体でアクセシビリティを推進しています。

ソニーはアクセシビリティを追求する上で、多様なニーズを持つ人々と共に検討し、その声を反映するインクルーシブデザインを、2025年度までに製品の商品化プロセスに取り入れていきます。

例えば、ゲーム&ネットワークサービス (G&NS) 分野でのアクセシビリティに関する取り組みはコンソール、ゲームタイトル、周辺機器などで進め

られています。2023年に販売を開始したPlayStation®5用「Access™ コントローラー」もアクセシビリティを推進する団体や専門家の意見を取り入れて開発されました。ニーズに合わせて自由にカスタマイズができ、障がいのあるプレイヤーもより長く快適にゲームを楽しむことができます。

アクセシビリティへの取り組みは、当事者の方にとってはもちろんのこと、多くの人にとってより利用しやすいという価値をもたらし、インクルーシブな社会の実現に貢献できると考えています。

### 環境への取り組み

ソニーでは環境への取り組みを「責任」と「貢献」の二つの軸で推進していますが、「責任」の象徴ともいえるのが、2010年に発表した長期環境計画「Road to Zero」です。Road to Zeroは、「気候変動」「資源」「化学物質」「生物多様性」の4つの視点で、2050年を達成目標年としてソニーの環境負荷をゼロにすることを目指しています。達成目標年からバックキャストする形で、5年ごとに中期目標を設定して、環境負荷削減に取り組んできました。

4つの領域の中でも、気候変動への対応がとりわけ喫緊の課題となっていることを踏まえ、温室効果ガス (GHG) 排出量ネットゼロの達成目標年を2040年として取り組みを進めています。

サプライチェーンにおけるGHG排出量はスコープ3に該当しますが、多くのグローバル企業にとって、この把握と削減は大きな課題となっています。ソニーとしても、2040年のネットゼロ目標の実現のためにはサプライヤーの排出量削減は不可欠と考えており、長期視点で取り組んでいます。まずは主要なサプライヤーの事業所における購入電力の使用に伴うGHG排出量を2030年までにネットゼロにすることを目指します。

私たちが、この数年注力してきたことのひとつが、サステナビリティを経営戦略に統合することであり、特に各事業の活動にサステナビリティを浸透させることです。事業ごとに、サステナビリティに関する課題と機会の分析を行い、それぞれの事業特性に応じた取り組みを行っています。

今後も情報開示と多様なステークホルダーとの対話を重視し、サステナビリティの取り組みを強化していきます。

## Sony’s Purpose & Values

### ソニーグループ行動規範

### ソニーのサステナビリティに関する基本方針

## Sony’s Sustainability Vision

### At a Glance 2023

### 編集方針・事業概要

## ソニーのサステナビリティ

### 推進体制

### サステナビリティ担当役員メッセージ

### 活動サマリー

### ステークホルダーエンゲージメント

### SDGsとソニーのかかわり

### 外部評価・外部表彰

## マテリアリティ

### 人材

### 安全衛生

### 人権の尊重

### 責任あるAIの取り組み

### アクセシビリティ

### 品質・カスタマーサービス

### 責任あるサプライチェーン

### コミュニティ・エンゲージメント

## 環境



### テクノロジーの活用

### 倫理・コンプライアンス

### コーポレート・ガバナンス

### サステナビリティ関連情報

# 活動サマリー

活動領域	注力事項	2023年度実績	今後に向けて	取り組みの主な掲載箇所
 <p>人材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社員一人ひとりの挑戦心と成長意欲を支援し、多様な人材が個性やスキル・能力・クリエイティビティを最大限に発揮できる活躍の場や成長機会の提供</li> </ul>	<p><b>ダイバーシティ、エクイティ&amp;インクルージョン (DE&amp;I)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>DE &amp; Iステートメントを改定し、グループ全体でDE&amp;Iの更なる進化に取り組む</li> <li>女性管理職比率30.7% (全グループ 2024年3月末時点)</li> <li>障がい者雇用率2.76% (ソニーグループ株式会社 2024年3月末時点)</li> <li>The Valuable 500のIconic Partnerとして参加し、プロジェクトのひとつであるメディアハブを支援</li> </ul> <p><b>社員の成長と活躍、社員エンゲージメント</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個に即したコンテンツや幅広いトピックのオンラインコースなど、より活用しやすい学習機会の提供</li> <li>社員各自がキャリア形成と自己成長を意識する環境の推進</li> <li>基幹人材の成長を支援するソニーユニバーシティにおいて、全事業から受講生を受け入れ、多様なトップマネジメントの参画によりプログラムを拡充</li> <li>経営陣の豊富な経験値を次世代に継承し、新たなグループシナジーや人材育成につなげることを目的としたソニークロスメンタリングプログラムを事業や地域を越えた22組のペアで実施</li> <li>2023年の社員意識調査参加率93%、同年エンゲージメント指標90% (社員エンゲージメント設問4問において、非好意的以外の回答をしている社員の割合)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループを挙げてのDE&amp;Iへのコミットメントとして、新たに数値目標を掲げ、ソニーグループ株式会社の役員※に占める女性比率及び外国籍比率を2030年までにそれぞれ30%以上にすることを目指す</li> <li>※取締役、執行役を含む上級役員およびその他の役員</li> <li>「DE&amp;I」「多様な人材の獲得と登用」「社員の挑戦と成長」「個性を最大限発揮できる環境づくり」に注力</li> <li>社員一人ひとりが働きやすく、新しいチャレンジを創発し、個性、スキル、能力、クリエイティビティを最大限発揮できる環境を提供していく</li> </ul>	<p>→ 人材</p> <p><a href="#">☑ 統合報告書</a></p> <p><a href="#">☑ ソニーグループ ポータルサイト</a> <a href="#">ダイバーシティ、エクイティ&amp;インクルージョン</a></p>
 <p>安全衛生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全と心身の健康の確保を最も重要な課題のひとつと位置づけ、ゼロ災害・ゼロ疾病を目指し、全ての事業活動において安全で働きやすい職場環境を確保する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年度-2026年度 グローバル安全衛生中期目標策定</li> <li>ゼロ災害・ゼロ疾病を目指した安全衛生施策の実施</li> <li>ISO45001 認証取得を推進し、全世界60拠点のうち54拠点にて統合認証取得済み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2024年度-2026年度 グローバル安全衛生中期目標に基づき、Vision Zero達成に向け、ソニーで働く人が安全で健康的に働くことのできる職場環境の整備を引き続き推進</li> <li>より活発で持続可能な安全衛生活動の実施</li> <li>ISO45001のグループ統合認証を60拠点まで拡張</li> </ul>	<p>→ 安全衛生</p>

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

推進体制

サステナビリティ担当役員メッセージ

活動サマリー

ステークホルダーエンゲージメント

SDGsとソニーのかかわり

外部評価・外部表彰

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント


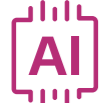

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報


活動領域	注力事項	2023年度実績	今後に向けて	取り組みの主な掲載箇所
<p>人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソニーの事業活動、製品、サービスまたはビジネス上の関係が、人権への負の影響を与えないための合理的な努力の継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソニーグループ人権方針」を策定</li> <li>本社サステナビリティ推進部、法務担当部署およびコンプライアンス担当部署からなるワーキンググループを月に1回程度開催し、当該ワーキンググループにおいて重点領域（「責任あるサプライチェーン」「多様性の尊重」および「責任あるテクノロジー開発および使用」）における取り組みの進捗状況を確認するとともに、法規制動向も踏まえ、施策の見直しなどを実施</li> <li>「Global Social Justice Fund」を通じた社会正義や人権保護に関する取り組みを支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソニーグループ人権方針」の周知徹底</li> <li>上記方針のもとで各事業領域との連携を強化し、人権デュー・デリジェンスの継続的な実施および重点領域における潜在的な人権への負の影響の防止・軽減への取り組みを継続</li> <li>ソニーグループ全体の事業活動およびバリューチェーンにおける人権リスク分析およびモニタリングの継続</li> </ul>	<p>→ <a href="#">人権の尊重</a></p>
<p>責任あるAIの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI倫理に取り組む体制と活動の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソニーグループ株式会社として、生成AIツールの利用にかかる社内ガイドラインを策定</li> <li>エレクトロニクス製品やサービスの開発ライフサイクルにおいて、AI倫理アセスメントを継続して実施</li> <li>AI倫理に関する社員への教育啓発活動を継続して実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI倫理アセスメントプロセスの改善と運用の効率化</li> <li>AI倫理に関する教育啓発活動の改善と継続実施</li> <li>必要に応じてガイドラインの見直し、改定</li> </ul>	<p>→ <a href="#">責任あるAIの取り組み</a></p> <p><a href="#">ソニーグループのResponsible AIへの取り組み</a></p>
<p>アクセシビリティ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なニーズを持つ人々に製品、サービス、エンタテインメントを楽しんでもらえるよう、アクセシビリティを高める活動を推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまなお客様のニーズを理解し、生かすため、アクセシビリティを必要とする方々とともに検討し、その声を反映するインクルーシブデザインをソニーグループ全体で推進</li> <li>社員一人ひとりの意識を高めるため、障がい当事者との対話や行動観察を通して、普段見落としがちなことへの気づきを得る社内ワークショップを定期的開催</li> <li>お客様の声を聞き、製品・サービスの改善に役立てるため、アクセシビリティに関する国内外のイベントに継続的に出展（CEATEC 2023、CSUN Assistive Technology Conference 2024など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクセシビリティに十分配慮した製品やサービスを提供するために、インクルーシブデザインの推進を継続</li> <li>アクセシビリティに対する社員の理解、啓発のための社内ワークショップの継続実施</li> </ul>	<p>→ <a href="#">アクセシビリティ</a></p> <p><a href="#">ソニーグループのアクセシビリティへの取り組み</a></p> <p><a href="#">「CEATEC 2023」に出展</a></p> <p><a href="#">「CSUN Assistive Technology Conference 2024」に出展</a></p>

- Sony's Purpose & Values
- ソニーグループ行動規範
- ソニーのサステナビリティに関する基本方針
- Sony's Sustainability Vision
- At a Glance 2023
- 編集方針・事業概要
- ソニーのサステナビリティ
- 推進体制
- サステナビリティ担当役員メッセージ
- 活動サマリー
- ステークホルダーエンゲージメント
- SDGsとソニーのかかわり
- 外部評価・外部表彰
- マテリアリティ
- 人材
- 安全衛生
- 人権の尊重
- 責任あるAIの取り組み
- アクセシビリティ
- 品質・カスタマーサービス
- 責任あるサプライチェーン
- コミュニティ・エンゲージメント
- 環境
- テクノロジーの活用
- 倫理・コンプライアンス
- コーポレート・ガバナンス
- サステナビリティ関連情報



活動領域	注力事項	2023年度実績	今後に向けて	取り組みの主な掲載箇所
<p>品質・ カスタマーサービス</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の期待を超える品質とカスタマーサービスの提供、製品の安全性やセキュリティの追求、顧客体験の向上に努めることで、「お客様から最も信頼されるパートナー」であり続ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質マネジメント体制の維持・運用と製品品質の継続的な改善</li> <li>製品の安全性、長期信頼性、製品セキュリティ向上を図る取り組みの継続</li> <li>ご相談窓口、カスタマーサービスの改善によるお客様満足度向上に向けた取り組みを継続</li> <li>顧客体験向上の取り組みの一環として、人間中心設計 (HCD) のプロセスを通じ、お客様視点に立った活動を継続、およびHCDの専門家の認定を継続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未然防止型活動、製品コンプライアンス体制、製品セキュリティ規制対応のさらなる強化。また、これらを通じたお客様視点での品質改善の取り組みにより、お客様の期待を超える品質を提供</li> <li>世界中に展開されているネットワークを活用し、収集した情報を分析し、新たな製品・カスタマーサービスに取り入れるサイクルを継続</li> <li>HCDのプロセス強化とHCD人材育成</li> </ul>	<p>→ <a href="#">品質・カスタマーサービス</a></p> <p>☑ <a href="#">ソニーグループ ポータルサイト</a> <a href="#">人間中心設計の取り組み</a></p>
<p>責任ある サプライチェーン</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>エレクトロニクス製品のサプライチェーンにおける、人権、労働環境、安全衛生や環境などに関するリスクへの対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社エレクトロニクス製造事業所12拠点、新規および既存サプライヤー 235工場に対する調査票によるアセスメントの実施</li> <li>原材料・部品調達に携わる部門の管理職に対してサプライチェーンにおける人権課題や気候変動対策の必要性についての研修を実施。また、全ての原材料・部品調達担当者に対して、ソニーのサステナブル調達方針とその取り組み、および気候変動対策の基本知識、ならびにソニーが目指すサプライチェーンにおける温室効果ガス排出削減対策に関する研修を実施</li> <li>RMIのThe RMAP Audit Fund およびBetter Mining プロジェクトへの寄付</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自社およびサプライヤーへの「ソニーサプライチェーン行動規範」遵守徹底の強化</li> <li>社員への研修に加えて、サプライヤーとのコミュニケーションを通じて啓発活動を強化</li> <li>高リスク鉱物の調達について、さまざまなステークホルダーと協働しながら引き続き対策を強化</li> </ul>	<p>→ <a href="#">責任あるサプライチェーン</a></p>
<p>コミュニティ・ エンゲージメント</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>「For the Next Generation」のスローガンのもと、事業活動を行う世界の各地域において、ソニーの強みである製品・コンテンツ、テクノロジーを用いてさまざまなグローバル課題の解決に貢献する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>コミュニティ活動支出：約47億円</li> <li>子ども向け教育プログラムの実施（約33万名参加）</li> <li>WWFジャパン、WWFインドネシア、SynecOと連携し、スマトラ島における森林再生活動へのSynecoculture™ の活用を目指したパイロット事業を開始</li> <li>ソニーのテクノロジーを活用し、社会課題解決を目指す取り組みとして「社会課題体験型視察プログラム」を実施</li> <li>「新型コロナウイルス・ソニーグローバル支援基金」を通じて、新型コロナウイルス感染症により深刻化あるいはより顕在化した社会課題に対応するため、国際連合児童基金 (UNICEF)、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、セーブ・ザ・チルドレンと総額約1,500万USDドルのパートナーシップを締結</li> <li>「Global Social Justice Fund」を活用し、社会正義や人権保護に関する取り組みを支援 (2023年度までの累計支出額：約98億円)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル課題やさまざまな地域社会のニーズに対して、引き続きソニーの製品・コンテンツ、テクノロジーとソニーグループ社員の力、さらにはステークホルダーとのパートナーシップを活用し、取り組む</li> <li>「Global Social Justice Fund」を通じて、ソニーグループのアセット、ノウハウを生かした支援活動を継続</li> <li>グローバルな社会課題に対する社内外の幅広い層への意識啓発活動や社員エンゲージメントの強化</li> <li>社会課題解決に向けたテクノロジーの応用</li> </ul>	<p>→ <a href="#">コミュニティ・エンゲージメント</a></p> <p>☑ <a href="#">ソニーグループ ポータルサイト</a> <a href="#">社会貢献活動</a></p>

- Sony's Purpose & Values
- ソニーグループ行動規範
- ソニーのサステナビリティに関する基本方針
- Sony's Sustainability Vision
- At a Glance 2023
- 編集方針・事業概要
- ソニーのサステナビリティ
- 推進体制
- サステナビリティ担当役員メッセージ
- 活動サマリー
- ステークホルダーエンゲージメント
- SDGsとソニーのかかわり
- 外部評価・外部表彰
- マテリアリティ
- 人材
- 安全衛生
- 人権の尊重
- 責任あるAIの取り組み
- アクセシビリティ
- 品質・カスタマーサービス
- 責任あるサプライチェーン
- コミュニティ・エンゲージメント
- 環境
- テクノロジーの活用
- 倫理・コンプライアンス
- コーポレート・ガバナンス
- サステナビリティ関連情報

活動領域	注力事項	2023年度実績	今後に向けて	取り組みの主な掲載箇所
<p>環境</p> 	<p>• 持続可能な社会を実現するために、自らの事業活動および製品のライフサイクルを通して、環境負荷をゼロにすることを目指す</p>	<p><b>気候変動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 製品1台あたりの年間消費電力量 : 0.7%減少 (2018年度比)</li> <li>• 事業所の温室効果ガス排出量 : 12.6%減少 (2020年度比)</li> <li>• 再エネ由来電力使用 (再エネ電力率) : 35.3%</li> <li>• 国際間・域内における物流GHG排出量 : 25.4%削減 (2018年度比)</li> </ul> <p><b>資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 製品1台あたりのバージンプラスチック使用量 : 16.1%削減 (2018年度比)</li> <li>• 製品1台あたりのプラスチック包装材使用量 : 25.1%削減 (2018年度比)</li> <li>• 事業所の廃棄物発生量原単位 : 51.2%悪化 (2020年度比)</li> </ul> <p>• One Blue Ocean Projectを全世界で展開し、事業所内での使い捨てプラスチックの削減を推進</p> <p><b>化学物質</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ソニー独自の化学物質管理基準に基づきPVC、BFRなどの代替素材使用を推進</li> </ul> <p><b>生物多様性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 全世界の事業所において、地域のニーズに応じた生物多様性の保全活動や教育・啓発活動を実施</li> <li>• One Blue Ocean Projectを全世界の事業所に展開し、地域のプラスチックごみの清掃活動を実施</li> <li>• Food for the Futureプロジェクトを全世界の事業所に展開し、環境配慮ガイドブックの社員への配布、環境配慮食材を使用したメニューの社員食堂での提供、10月をFood for the Future Monthとし、環境配慮食材に関するイベントを実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 2040年のスコープ1から3までを含むバリューチェーン全体のネットゼロ、2050年の環境負荷ゼロに向け、さらなる取り組みの強化             <ul style="list-style-type: none"> <li>- 地球環境保全に貢献する技術の開発と活用</li> <li>- サプライチェーンエンゲージメントの強化</li> <li>- エンタテインメント事業を中心とした啓発活動の強化</li> </ul> </li> <li>- 2030年に再エネ電力100%達成に向け、事業所での太陽光パネル設置などを通じた再エネ導入量の拡大</li> <li>- 2030年に自社オペレーションにおける直接・間接排出 (スコープ1、2) のネットゼロの達成</li> <li>- SBT「1.5℃目標」に認定された2035年度を達成年とした気候変動目標の達成に向けて、さらなる取り組みの強化</li> <li>- 炭素除去・固定への探索と貢献</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 製品のプラスチック包装材削減と石油由来バージンプラスチック削減の強化</li> </ul>	<p>→ 環境</p> <p>→ テクノロジーの活用</p> <p><a href="#">ソニーグループ ポータルサイト 環境</a></p>

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

推進体制

サステナビリティ担当役員メッセージ

活動サマリー

ステークホルダーエンゲージメント

SDGsとソニーのかかわり

外部評価・外部表彰

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント



環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

活動領域	注力事項	2023年度実績	今後に向けて	取り組みの主な掲載箇所
<p>テクノロジーの活用</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ全体を技術でつなぎ、各事業の進化を支える</li> <li>事業横断でエンジニアの協働・連携・成長を促進する</li> <li>外部環境変化を取り込み、社外連携を推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IoT技術を活用したソニーの地球みまもりプラットフォームMIMAMORIにおける共同研究や実証実験の実施</li> <li>トリポーラス™のヘルスケア分野での実用化促進</li> <li>報道ワークフローでの透明性・信頼性を向上する真正性カメラソリューションの一部の報道機関への提供を開始</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまな分野のクリエイターの創造力を最大限に引き出す技術、クリエイターの作ったIPの価値を最大化する技術、およびクリエイターの想いを世界の多様なユーザーに届けるための研究開発を重視し、その中核として「センシング」「AI」「仮想空間」の3領域の進化と連携に注力</li> <li>大規模AIモデルの開発にも着手し、ソニーをAIおよびデータドリブンカンパニーとして変革させることを目指す</li> </ul>	<p>→ テクノロジーの活用</p>
<p>倫理・コンプライアンス</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソニーのPurpose &amp; Valuesおよび「ソニーグループ行動規範」を指針とした倫理的な企業文化の醸成</li> <li>事業活動にかかわるリスクの継続的評価とその結果に基づくコンプライアンスプログラムの定期的な見直し</li> <li>プライバシーをめぐる環境の変化や技術の発展に応じたプログラム強化および継続的な実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソニーグループ行動規範」の改定</li> <li>グローバル・エシックス&amp;コンプライアンス・ネットワークを通じ、倫理・コンプライアンスに関する研修の実施やメッセージの発信</li> <li>内部通報制度「ソニー・エシックス&amp;コンプライアンス・ホットライン」の運用 (内部通報件数: 2023年度492件)</li> <li>「ソニーグループ第三者精査規程」に基づく第三者リスクの管理プログラムの実施</li> <li>「ソニーグループ贈賄防止規程」に基づく腐敗防止プログラムの実施</li> <li>プライバシーに関する主要な環境変化に対応するため、グローバルのプライバシーマネジメント体制の強化およびプログラムを実施</li> <li>プライバシー管理ソフトウェアの利用によるプライバシーアセスメントプロセスの効率化・全社員へのプライバシー研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誠実さを大切にする企業文化のさらなる醸成と社員一人ひとりによる倫理的で責任ある行動の確保のために、トップマネジメントによる率先垂範、研修の充実などの取り組みを継続</li> <li>ソニーの事業活動にかかわるリスクとプログラムの評価を行い、その結果に基づくプログラムの見直しを継続</li> <li>事業の体制とより整合する形となるよう2024年度に見直した、新しいグローバル・エシックス&amp;コンプライアンス・ネットワークの効果的な運用</li> <li>テクノロジーやプロセスの改善による、プライバシーにかかるオペレーションのさらなる効率化</li> <li>プライバシー関連社内規則の遵守状況モニタリングおよび研修の確実な実施と啓発活動の強化</li> </ul>	<p>→ 倫理・コンプライアンス</p>

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

推進体制

サステナビリティ担当役員メッセージ

活動サマリー

ステークホルダーエンゲージメント

SDGsとソニーのかかわり

外部評価・外部表彰

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報



活動領域	注力事項	2023年度実績	今後に向けて	取り組みの主な掲載箇所
<p>コーポレート・ガバナンス</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソニーグループに適したコーポレート・ガバナンス体制の構築と強化</li> <li>ソニーグループに損失を与えうるリスクの管理</li> <li>情報セキュリティ管理の体制・活動の強化</li> <li>ソニーが事業を行う国や地域に適用される税法ならびに国際課税に関する共通の規則およびガイドランスの遵守</li> </ul>	<p><b>コーポレート・ガバナンス体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第四次中期経営計画の進捗状況および結果のレビュー実施、ならびに第五次中期経営計画の策定</li> <li>事業ポートフォリオおよびキャピタルアロケーションの監督を継続</li> <li>地政学および情報セキュリティを含むリスクに対する継続的な監督</li> <li>新たな技術および社会の変化（生成AI、サステナビリティ等）に関する戦略に係る議論の継続および深化</li> </ul> <p><b>リスク管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各国・各地域の貿易制限、経済制裁措置などによるグローバルな事業展開への影響への対応</li> <li>危機管理体制の機能維持および強化、事業中断リスク低減のための取り組みを継続実施</li> </ul> <p><b>サイバーセキュリティ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報セキュリティ管理の強化のため、全グループ会社向け情報セキュリティ規定の改訂</li> <li>情報セキュリティ管理体制を改善し、情報セキュリティのガバナンスを強化</li> <li>24時間365日体制のグローバルセキュリティオペレーションセンターによる継続的なモニタリングと対応</li> </ul> <p><b>税務戦略</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業目的と事業実態に沿った税務運営、および取締役であるCFOおよび監査委員会への税に関する報告を継続</li> <li>税務に関する事項について、税務当局とのオープンで透明性のある関係の構築</li> <li>将来の税制が公正で対応可能なものとなるよう、税制改正および税制の方針に関して政府およびOECDに協力</li> </ul>	<p><b>コーポレート・ガバナンス体制の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第五次中期経営計画および長期成長戦略の進捗モニタリング</li> <li>注力領域（IP価値最大化およびIP価値最大化を支える技術基盤）に関する、議論の深化および監督</li> <li>リスクマネジメント（サイバーセキュリティ、経済安全保障・地政学リスクを含む）</li> <li>取締役会における多様性と継続性確保に向けた、取締役候補の選定</li> <li>株式報酬のさらなる活用検討および報酬ガバナンス施策の強化</li> <li>執行側との効果的な連携および会計監査人・内部監査部門との適切な関係確保</li> </ul> <p><b>リスク管理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各国・各地域の貿易制限、経済制裁措置、その他地政学的リスクなどによるグローバルな事業展開への影響への継続的な対応</li> <li>危機管理・事業継続計画の実効性を高めるために、ソニーグループ各社と本社の連携強化、実践的訓練の実施および継続的改善</li> <li>適切な設備更新・修繕計画などを通じた建物の継続的リスク低減</li> <li>ソニーグループ指針に基づく、製造事業所などにおける継続的火災リスク低減</li> </ul> <p><b>サイバーセキュリティ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>改訂された全グループ会社向け情報セキュリティ規定に基づく、セキュリティ管理の強化</li> <li>高度化するサイバー攻撃の脅威に対して日々検証し、対策の改善を行い、新しい脅威を可視化し、情報セキュリティに関する事象への迅速かつ的確な対応を継続</li> <li>高度な情報セキュリティ人材の確保、育成の継続</li> </ul> <p><b>税務戦略</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業目的と事業実態に沿った税務運営、および取締役であるCFOおよび監査委員会への税に関する報告を継続</li> <li>税務に関する事項について、税務当局とのオープンで透明性のある関係の維持・向上</li> <li>将来の税制が公正で対応可能なものとなるよう、税制改正および税制の方針に関して政府およびOECDへの協力を継続</li> </ul>	<p>→ <a href="#">コーポレート・ガバナンス</a></p> <p><a href="#">☑ 統合報告書</a></p> <p><a href="#">☑ ソニーグループポータルサイト</a> <a href="#">コーポレートガバナンス・内部統制</a></p> <p><a href="#">☑ 有価証券報告書</a></p>

- Sony's Purpose & Values
- ソニーグループ行動規範
- ソニーのサステナビリティに関する基本方針
- Sony's Sustainability Vision
- At a Glance 2023
- 編集方針・事業概要
- ソニーのサステナビリティ**
- 推進体制
- サステナビリティ担当役員メッセージ
- 活動サマリー
- ステークホルダーエンゲージメント
- SDGsとソニーのかかわり
- 外部評価・外部表彰
- マテリアリティ
- 人材
- 安全衛生
- 人権の尊重
- 責任あるAIの取り組み
- アクセシビリティ
- 品質・カスタマーサービス
- 責任あるサプライチェーン
- コミュニティ・エンゲージメント
- 環境
- テクノロジーの活用
- 倫理・コンプライアンス
- コーポレート・ガバナンス
- サステナビリティ関連情報

# ステークホルダー エンゲージメント

## ステークホルダーとのコミュニケーション

ソニーは、多くのステークホルダーから関心を寄せられる課題を、自らの事業活動と持続的な成長に必要なグループ経営の基盤強化につながる課題分野として捉え、事業活動そのものや対話を通して、ステークホルダーの信頼を得られるよう努めています。

ステークホルダー	主なかかわり	コミュニケーション方法
お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>お客様の視点に立った「満足」「信頼」「安心」の製品・サービスの提供</li> <li>より満足してご利用いただくためのカスタマーサービスの提供</li> <li>使いやすさとアクセシビリティ向上への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>お問い合わせ窓口、製品・サービスに関する重要なお知らせ、製品やネットワークサービスの脆弱性報告窓口、購入者アンケート、展示会、セミナーの開催、ソニーグループ ポータルサイト「アクセシビリティ」「人間中心設計の取り組み」、各種ソーシャルメディアなど</li> </ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>適時、適切な会社情報の開示</li> <li>企業価値の継続的な向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株主総会、経営方針説明会、事業説明会、個人投資家向け会社説明会、サステナビリティ説明会、技術説明会、ソニーグループ ポータルサイト「投資家情報」、統合報告書「Corporate Report」の発行、機関投資家とのスモールミーティング、個別面談、ESGダイアログの実施など</li> </ul>
ビジネスパートナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソニーグループ行動規範」および「ソニーサプライチェーン行動規範」に則った「公正・公明・公平」な資材調達</li> <li>原材料調達過程における環境問題や社会課題（労働、人権、紛争課題など）への取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サプライヤー向けの説明会、CSR調達・環境に関する監査・調査、紛争鉱物調査、サプライヤー専用ウェブサイトおよび相談窓口の設置、サプライヤーとの定期的な協議、「ソニーグループ エレクトロニクスサプライチェーンにおける苦情受付窓口」の設置など</li> </ul>
社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>個性豊かな社員一人ひとりの成長の支援と挑戦機会の提供</li> <li>多様な人材の採用</li> <li>多様な社員の活躍を支える取り組み</li> <li>ビジネス成長をけん引するグローバルリーダーや技術者の育成・登用</li> <li>主体的なキャリア形成をサポートするキャリア開発支援</li> <li>安心・安全で、個性を最大限発揮できる職場環境の提供</li> <li>社員意識調査やタウンホールミーティングを通じた対話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル会同（四半期ごと）、タウンホールミーティング、マネジメントブログ</li> <li>社内報、社内ウェブサイト、電子メール配信</li> <li>キャリア面談、キャリアカウンセリング</li> <li>社員意識調査（社員エンゲージメント調査）</li> <li>ソニー・エシックス&amp;コンプライアンス・ホットライン、労使交渉、安全衛生委員会、社会課題視察プログラムなど</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>ソニーの得意とする分野で、時代や社会のニーズに応える社会貢献活動</li> <li>緊急人道支援</li> <li>NGO / NPOとの協働による社会課題解決に向けた取り組み</li> <li>社員のボランティア参画に向けた支援・体制整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域でのボランティア活動、地域自治体イベントへの参画、社会貢献活動など</li> </ul>
地球環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの事業活動および製品のライフサイクルを通して、環境負荷をゼロにすることを目指す取り組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各事業所における環境負荷の削減および地域貢献活動、製品・サービスのライフサイクルを通じた環境配慮、各ステークホルダーとのコミュニケーションにおける環境情報の発信、ソニーグループ ポータルサイト「環境」からの情報発信など</li> </ul>
NGO / NPO、各種関連団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>NGO / NPO、各種関連団体との協働による社会課題解決に向けた取り組み</li> <li>グローバルなフレームワークへの参画</li> <li>CSR関連団体・プロジェクトへの参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NGO / NPO、各種関連団体と協働した活動の展開など</li> </ul>

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

推進体制

サステナビリティ担当役員メッセージ

活動サマリー

ステークホルダーエンゲージメント

SDGsとソニーのかかわり

外部評価・外部表彰

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

## パートナーシップとフレームワークへの参画

サステナビリティに関する取り組みには、さまざまなステークホルダーとのパートナーシップやエンゲージメントが不可欠です。ソニーは、自らの活動においてステークホルダーとのエンゲージメントを推進するだけでなく、マルチステークホルダーによるグローバルなフレームワーク形成にも参画しています。

団体・イニシアティブ	概要	ソニーの活動
 <p>Responsible Business Alliance (RBA)</p>	<p>エレクトロニクス業界のサプライチェーンにおける人権への配慮、労働環境、安全衛生や環境保全を含めた責任ある調達を実現するためのアライアンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設立メンバー (旧EICC)</li> <li>RBAの行動規範を適用した「ソニーサプライチェーン行動規範」の制定</li> <li>2020年よりRBA取締役会メンバーの一員</li> </ul>
 <p>企業市民協議会 (CBCC)</p>	<p>経団連のイニシアティブにより設立海外で事業活動を行う日系企業が、さまざまなステークホルダーと良好な関係を築くことを支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>創業者のひとりである盛田昭夫が初代会長</li> <li>現在も積極的に参画を継続</li> </ul>
 <p>BSR</p>	<p>CSRに関する専門知識を有するグローバルな非営利団体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BSRの主催する人権分科会およびサステナビリティ戦略分科会のメンバーとして活動に参画</li> </ul>

→ 責任あるサプライチェーン

→ 人権の尊重

団体・イニシアティブ	概要	ソニーの活動
 <p>セーブ・ザ・チルドレン</p>	<p>日本を含む世界約120カ国で子ども支援を行う民間・非営利の国際組織 生きる・育つ・守られる・参加する「子どもの権利」が実現された世界を目指し、緊急・人道支援や教育など多岐にわたる分野で活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同で緊急人道支援にかかわるプロジェクトやファンドを立ち上げ、継続的に次世代を担う子どもたちへの支援活動を実施</li> <li>日本国内で経済的に困難な状況にある家庭への「子ども給付金」の支給を通じた子どもの貧困問題解決や、バングラデシュおよびモザンビークにおける子どもや青少年の保護・レジリエンス向上などの支援</li> </ul>
 <p>国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)</p>	<p>紛争や迫害により避難を余儀なくされた難民や国内避難民、無国籍者などを保護・支援するため、緊急支援、基本的人権の擁護など約135カ国で活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症の影響を受けた、バングラデシュ・南部アフリカ地域の難民・避難民・受け入れ地域の復興・保健衛生の支援</li> </ul>
 <p>国際連合児童基金 (UNICEF)</p>	<p>世界で最も困難な立場にある子どもたちへの支援を最優先に、約190の国と地域で、全ての子どもにとってより良い世界の実現を目指し活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰もがデジタル教育を平等に享受できる環境の整備や、世界各地の子どもや若者を対象とした、メンタルヘルス向上に向けた活動を支援</li> </ul>
 <p>The Valuable 500</p>	<p>障がいのある人がビジネス、社会、経済にもたらす潜在的な価値を發揮できるような活躍推進に取り組む国際イニシアティブ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年に加盟</li> <li>署名企業500社から推進役として国や地域、業界をリードするIconic Partnerとして選定</li> </ul>
 <p>G20 EMPOWER</p>	<p>経済・ビジネスにおける主要な役割を担う女性の増加とエンパワーメント達成のための民間セクターのアライアンス</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年に日本での活動を支援するアドボケート企業として参画</li> </ul>

→ コミュニティ・エンゲージメント

→ 人材

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

推進体制

サステナビリティ担当役員メッセージ

活動サマリー

ステークホルダーエンゲージメント

SDGsとソニーのかかわり

外部評価・外部表彰

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

団体・イニシアティブ	概要	ソニーの活動
世界自然保護基金 (WWF) クライメート・セイバーズ・プログラム 	企業とWWFがパートナーシップを結び、温室効果ガスの削減計画策定とその実施を進めていくプログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>2006年からプログラムに参加</li> <li>2021年にWWFジャパンと3年間の包括的コーポレート・パートナーシップ契約を締結し、気候変動分野に加え、森林保全を通じた生物多様性保全分野で協働。2024年に契約更新</li> </ul>
気候変動イニシアティブ (JCI) 	日本において気候変動対策に積極的に取り組む企業や自治体、NGOなどの情報発信や意見交換を強化するためのネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年から参加</li> <li>日本政府に対する提言に賛同署名</li> </ul>
RE100 	The Climate GroupがCDPとのパートナーシップのもとで主導する国際的なイニシアティブ 事業活動で使用する電力を100%再生エネルギーすることを目指す企業が参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>2018年に加盟</li> <li>2030年までに自社の事業活動で使用する電力を100%再生エネルギーにすることを宣言</li> <li>2022年にRE100アドバイザー委員会の1社に選定</li> </ul>
TCFDコンソーシアム 	金融安定理事会により設置された気候関連財務情報開示タスクフォースによる提言 (TCFD提言) に賛同する団体が議論する場として発足	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年にTCFD提言への賛同を表明</li> <li>「TCFDコンソーシアム」に参加</li> </ul>
Playing for the Planetアライアンス 	国連環境計画 (UNEP) がゲーム業界に呼びかけて設立した気候変動に関する国際的アライアンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>2019年よりSony Interactive Entertainment (SIE) が参画</li> </ul>

団体・イニシアティブ	概要	ソニーの活動
Business Ambition for 1.5°C 	国連グローバル・コンパクト、We Mean Business、SBTiが主導し、温暖化による世界の気温上昇を産業革命前と比べ1.5°C未満に抑える目標づくりを呼びかける活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>2020年に参加</li> </ul>
Race To Zero Campaign 	国連気候変動枠組条約事務局 (UNFCCC) が2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロ達成に向けた行動を呼びかける国際的なキャンペーン	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年に参加</li> </ul>
Music Climate Pact 	英国レコード産業協会とAssociation of Independent Musicにより設立された、音楽業界全体で脱炭素化を推進するためのグローバルプラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>2021年にソニーミュージックグループがSony Music Entertainment (UK) を代表して参加署名</li> </ul>
The Climate Pledge 	2040年にネット・ゼロ・カーボンの実現を目指すイニシアティブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年に参加</li> </ul>
Music Industry Climate Collective (MICC) 	地球環境の課題と変化に対して音楽業界で取り組むことを目的としたアライアンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023年にソニーミュージックグループが設立メンバーとして参加</li> </ul>

→ 環境

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

推進体制

サステナビリティ担当役員メッセージ

活動サマリー

ステークホルダーエンゲージメント

SDGsとソニーのかかわり

外部評価・外部表彰

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報



# SDGsとソニーのかかわり

ソニーは、「クリエイティビティとテクノロジーの力で、世界を感動で満たす」というPurposeと「人に近づく」という経営の方向性のもと、「人」を軸に多様な事業を展開しています。人々が感動でつながるためには、私たちが安心して暮らせる社会や健全な地球環境があって初めてなり立つという認識のもと、イノベーションと健全な事業活動を通じて、持続可能な社会の発展に貢献することを目指しています。ソニーの多様な事業内容は、SDGsの掲げる17の目標にも深く関係しており、ソニーの技術、製品、サービス、コンテンツの活用や、さまざまなパートナーシップを通じた事業活動によりSDGsの達成に貢献できると考えています。



## サステナビリティへの取り組みとSDGs

### 地球環境への責任と貢献

自らの事業活動、および製品のライフサイクル全体を通して環境負荷を確実に減らすとともに、汚染の防止に努めています。

ゴール13「気候変動に具体的な対策を」への対策として、事業活動ならびに商品・サービスのライフサイクルに起因するエネルギーの使用を削減し、

2040年までに、スコープ3までを含めた温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指しています。また、「RE100」に加盟し、2030年までに自社の事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーとする具体的な目標も掲げていることは、ゴール7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」の持続可能なエネルギーの確保と合致しています。

さらに、事業活動における新規の資源投入量を最小化するために、重視する資源を特定し、その新規材料の利用量ゼロを目指しています。また、水の適正な利用、事業所における廃棄物の最小化、市場からの製品の回収とリサイクルの推進といった活動により、ゴール12「つくる責任つかう責任」にも貢献しています。

→ [マテリアリティ \(気候変動\)](#)

→ [環境](#)

### ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン (DE&I)

事業と人のダイバーシティ (多様性) は、ソニーの経営戦略上の強みです。これを重要な経営課題のひとつとして捉え、より一層推進していくために、多様な事業と地域を越えた社員の活躍、多様な人材の採用に加え、人種、国籍、障がい、性別、性的指向や価値観、働き方といったさまざまな多様性について深く考える機会を、社内にとどまらず他企業や社外団体などにも提供しています。さらに社会への発信も行うことで、ゴール8「働きがいも経済成長も」に掲げられるような、全ての人々のための包摂的かつ持続可能な経済成長、雇用およびディーセント・ワークを推進しています。

また、ゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」で目指すジェンダーの平等や女性のエンパワーメントに関しては、女性活躍推進の行動計画を策定しグループ各社において取り組みを継続しています。

→ [マテリアリティ \(ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン \(DE&I\)\)](#)

→ [人材 \(ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン \(DE&I\)\)](#)

### 人権と多様性

社員やクリエイターをはじめ事業活動にかかわる全てのステークホルダーは、ソニーを支える重要な存在であると同時に、SDGs達成に向けた社会変革を実現するための推進力でもあります。

ソニーの人権の尊重に関する基本的な方針を「ソニーグループ行動規範」

で定め、全社員に行動規範の周知徹底を行っています。2024年3月には、新たに「ソニーグループ人権方針」を策定しました。また、2020年に設立した「Global Social Justice Fund」を通じ、社会正義、人権保護やDE&Iの推進に取り組んでいます。

こうした取り組みを通してゴール10「人や国の不平等をなくそう」で目指す差別的な慣行の撤廃と、適切な行動促進を通じた機会均等の確保、また成果の不平等の是正につなげています。

→ [マテリアリティ \(人権の尊重\)](#)

→ [人権の尊重](#)

### サプライチェーン全体を通じた取り組み

自社のみならずサプライヤーや製造委託先を含むサプライチェーンにおける人権、労働環境、安全衛生や環境などの課題に、「ソニーサプライチェーン行動規範」や「ソニーグループ責任ある鉱物サプライチェーン方針」の運用を通じてサプライヤーとともに取り組んでいます。

こうした取り組みを通して、サプライチェーンを含めた多様な人々にとってSDGsのゴール8「働きがいも経済成長も」で提唱されるような安全で働きがいのある人間らしい仕事を提供し、ゴール10「人や国の不平等をなくそう」で目指す適切で平等な能力強化や経済活動に貢献しています。これらの活動をサプライチェーン全体で推進することは、ゴール16「平和と公正をすべての人に」で掲げられる平和で包摂的な社会を目指すことにつながっていきます。

→ [責任あるサプライチェーン](#)

### コミュニティ・エンゲージメント

「For the Next Generation」をスローガンに掲げ、事業活動を行う世界の各国・各地域において、ソニーの製品・コンテンツ、テクノロジー、さらには社員の力の3つのリソースを活用し、パートナーと連携して、次世代育成支援 (教育)、災害・人道支援、グローバル課題への対応の3つの重点領域に対してさまざまな社会貢献活動を展開しています。

こうした活動はゴール4「質の高い教育をみんなに」への貢献に加え、ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」にあるように外部団体との連携を図りながら、社会的なインパクトを生み出すことを目指しています。

→ [コミュニティ・エンゲージメント](#)

Sony's Purpose & Values
ソニーグループ行動規範
ソニーのサステナビリティに関する基本方針
Sony's Sustainability Vision
At a Glance 2023
編集方針・事業概要
<b>ソニーのサステナビリティ</b>
推進体制
サステナビリティ担当役員メッセージ
活動サマリー
ステークホルダーエンゲージメント
SDGsとソニーのかかわり
外部評価・外部表彰
マテリアリティ
人材
安全衛生
人権の尊重
責任あるAIの取り組み
アクセシビリティ
品質・カスタマーサービス
責任あるサプライチェーン
コミュニティ・エンゲージメント
環境
テクノロジーの活用
倫理・コンプライアンス
コーポレート・ガバナンス
サステナビリティ関連情報



# 外部評価・外部表彰

## ESGに関する外部評価・インデックス組み入れ状況

ソニーは、継続したサステナビリティ推進への取り組みが評価され、世界有数のESG評価機関からの高評価を維持し、さまざまなESGインデックスの構成銘柄に選定されています。

### ESGに関する外部評価

- CDPの気候変動に関する調査において、最高評価の「Aリスト」企業に選定 (2024年2月)
- サプライチェーンと協力した気候変動対策の取り組みにより、2023年 CDPサプライヤー・エンゲージメント評価において、サプライヤー・エンゲージメント・リーダーに選出 (2024年3月)
- 企業倫理の研究と推進を行う米国の専門機関である「Ethisphere Institute」より、6年連続で「World's Most Ethical Companies (世界で最も倫理的な企業)」に選定 (2024年3月)  
※ 「World's Most Ethical Companies」、「Ethisphere」の名称およびロゴは、Ethisphere LLCの商標です
- MSCI ESG評価格付けにおいて、5年連続で最高評価のAAAを獲得 (2023年12月)



### ESGインデックス組み入れ状況



2024 CONSTITUENT MSCI日本株 ESGセレクト・リーダーズ指数

FTSE Russell (the trading name of FTSE International Limited and Frank Russell Company) confirms that Sony Group Corporation has been independently assessed according to the criteria of the FTSE4Good and FTSE Blossom Index Series and has satisfied the requirements to become a constituent of those index series. Created by the global index provider FTSE Russell, those index series are designed to measure the performance of companies demonstrating strong Environmental, Social and Governance (ESG) practices and used by a wide variety of market participants to create and assess responsible investment funds and other products.

THE INCLUSION OF SONY GROUP CORPORATION IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF SONY GROUP CORPORATION BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

[ESGに関する外部評価・インデックス組み入れ状況一覧](#)

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

推進体制

サステナビリティ担当役員メッセージ

活動サマリー

ステークホルダーエンゲージメント

SDGsとソニーのかかわり

外部評価・外部表彰

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報

## サステナビリティに関する主な外部表彰一覧

組織名称などは当時のものをそのまま掲載しており、現在はその限りではありません。主催において国名記載のないものは日本です。

### 2023年度 (受賞月順)

表彰名称	受賞法人・団体	表彰内容	主催	取得年月
第6回宇宙開発利用大賞 総務大臣賞	ソニーグループ株式会社	宇宙開発利用の推進に多大な貢献をした先導的な事例を評価する賞。ソニー独自の低消費電力広域通信規格 (LPWA) であるELTRES™を宇宙に応用した、省電力で送信が可能な森林火災の検知システムが東南アジアの課題解決に貢献し、途上国での活用も期待できるとして評価されました。 ■ 表彰された取り組み・製品: ソニーの地球みまもりプラットフォーム	内閣府	2024年3月
2024 World's Most Ethical Companies (世界で最も倫理的な企業)	ソニーグループ株式会社	最高水準の倫理、コンプライアンス、ガバナンスの実践を通じて、事業における誠実さに関して卓越したリーダーシップと貢献を行った企業を表彰するもの。当社の企業倫理とコンプライアンスに関する取り組みが評価されました。	Ethisphere Institute (米国)	2024年3月
HCD-Net AWARD 2023 審査員特別賞	ソニーグループ株式会社	Human-Centered Design (人間中心設計) の取り組みにおいて共有価値の高い知識・ノウハウを表彰するもの。新規性 / ユニークさ、オリジナリティ / 利用価値・共有価値の大きさ / 成果事例の内容 / プレゼンテーションの5つの観点で評価されました。 ■ 表彰された取り組み・製品: HCD人材強化と社内浸透のための仕組みづくり	特定非営利活動法人 人間中心設計推進機構	2024年3月
令和5年度 青少年の体験活動推進企業表彰「特別賞 (スペシャルニーズ賞)」	ソニー生命保険株式会社	企業の自社の強みを活かした教育CSR活動を奨励・普及するために創設した表彰制度。次世代を担う子どもたちが社会を生き抜く力を身に付けること等、青少年の体験活動の機会推進を目的とするもの。 ■ 表彰された取り組み・製品: ライフプランニング授業	文部科学省	2024年2月
IAUD国際デザイン賞2023	ソニーグループ株式会社 / 株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメント / ソニー・インタラクティブエンタテインメントLLC	民族、文化、慣習、国籍、性別、年齢、能力等の違いによって、生活に不便さを感じることなく、“一人でも多くの人が快適で暮らしやすい”ユニヴァーサルデザイン社会の実現に向けて、特に顕著な活動の実践や提案を行っている団体・個人を表彰するもの。 ■ 表彰された取り組み・製品: XRキャッチボール、リハビリ・ウェルビーイングゲームフィクション※、Access™コントローラー	一般財団法人 国際ユニヴァーサルデザイン協議会 (IAUD)	2024年2月
プラチナえるぼし	ソニーグループ株式会社	女性活躍推進に関する取り組みが特に優良な企業に対して行われる認定。当社の女性管理職比率等が、厚生労働省の定める全ての基準を満たしていることから認定を獲得しました。	厚生労働省	2024年1月
PRIDE指標2023 ゴールド認定	ソニーグループ株式会社および国内グループ18社	LGBTQ+社員の働きやすい職場環境のある企業を認定するもの。ソニーのLGBTQ+に関する制度の充実、研修の実施、外部イベントへの協賛、社内ネットワークの構築などが評価され、認定を獲得しました。	一般社団法人 work with Pride	2023年11月
令和5年度前期「自然共生サイト」認定	ソニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株) 幸田サイト	新たな世界目標である「昆明・モンリオール生物多様性枠組」における、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標 (30by30目標) の一環として、環境省が2023年に始めた認定制度。ソニーの森は、民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域として自然共生サイトに認定されました。	環境省	2023年10月

[☒ サステナビリティに関する主な外部表彰一覧](#)

※ リハビリ・ウェルビーイングゲームフィクションの取り組みにおいてはソニー・ライフケアグループの一員であるライフケアデザイン(株)が運営する施設にてトライアルを実施しました。

Sony's Purpose & Values

ソニーグループ行動規範

ソニーのサステナビリティに関する基本方針

Sony's Sustainability Vision

At a Glance 2023

編集方針・事業概要

ソニーのサステナビリティ

推進体制

サステナビリティ担当役員メッセージ

活動サマリー

ステークホルダーエンゲージメント

SDGsとソニーのかかわり

外部評価・外部表彰

マテリアリティ

人材

安全衛生

人権の尊重

責任あるAIの取り組み

アクセシビリティ

品質・カスタマーサービス

責任あるサプライチェーン

コミュニティ・エンゲージメント

環境

テクノロジーの活用

倫理・コンプライアンス

コーポレート・ガバナンス

サステナビリティ関連情報